

## 近現代美術に関する交流史的研究 (①企03-13-3/5)

### 目 的

日本を含む東アジア諸地域における近現代美術の研究資料の収集、整理、調査研究を行うとともに、その交流を明らかにする有効な視点と調査研究方法の開発を目指す。また、多様化する我国の現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を作成する。

### 成 果

1. 黒田清輝作品及び関連資料の調査
  - ・本年度に東京国立博物館へ寄贈された黒田清輝《グレーの原》、及び同《大磯鳴立庵》(個人蔵)の調査を行った。また当研究所が保管する黒田清輝宛書簡のデジタル画像作成を完了した。
2. 現代美術資料の整理作業及びデータベース化作業
  - ・笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進めた。また美術評論家の故鷹見明彦氏旧蔵資料の整理を行った。
3. 当所所蔵近現代美術資料データの公開促進についての調査
  - ・『日本美術年鑑』所載の物故者経歴データベース公開に向け、その分類についての再検討を行った。
4. 矢代幸雄・ベレンソン往復書簡の翻刻・翻訳及び関連調査
  - ・矢代幸雄のベレンソン宛書簡の翻字を終えた。ベレンソンの矢代宛書簡については、ベレンソンの研究所を引き継いだイタリアのイタッティ・ルネサンス・ライブラリーと共同で翻刻を進める協議を行った。
5. 東アジアを中心とする近代美術の交流に関する調査
  - ・2013(平成25)年6月5日、来訪研究員のスタンレー・アベ氏(米国、デューク大学教授)による講演会「中国彫刻」を想像する」を開催した。山梨・塩谷は6月にソウルで崔公鎬氏(韓国伝統文化大学校)・藤村真以氏(光云大学校)と研究協議を行い、田中は6月に東國大学校(ソウル)、12月に国立台湾大学(台北)での国際シンポジウムに参加し、発表を行った。

### 論文

- ・塩谷純「歴史を学ぶ・楽しむ—幕末明治期の視覚表現から」『日本美術全集 第16巻 幕末から明治時代前期 激動期の美術』小学館 pp.185-193 13.10
- ・田中淳「序論：萬鉄五郎 七変化—「口髭のある自画像」を中心に」『萬鉄五郎 七変化』展図録 萬鉄五郎記念美術館 pp.8-23 13.11

### 発表

- ・田中淳「モダニズムのなかの文人画—画家中川一政の「文人」像」第48回国際学術シンポジウム「美術文化から見る韓日」東國大学校日本学研究所 13.6.21
- ・山梨絵美子「時代を拓いた人—黒田清輝に迫る」長野県信濃美術館 13.7.13
- ・山梨絵美子「徳川慶喜の油絵を読む—幕府開成所と近代洋画」静岡市美術館 13.11.16
- ・田中淳「移動する画家たち—1920年代の日本の岩手県の画家たち」国際学術研討会「異郷與家郷 東亜美術史的伏流與激盪 1920-40」国立台湾大学芸術史研究所 13.12.6-7

### 研究組織

○塩谷純、田中淳、山梨絵美子、城野誠治、中村明子(以上、企画情報部)、三上豊、丸川雄三(以上、客員研究員)